



コロナ変異株で緊急事態宣言が発出中ですが・・・(いつまでコロナが続くのか?)

心の栄養として読んでくれば嬉しいです。下：3/3

「21 世紀に生きる君たちへ」 <後半>

司馬 遼太郎

さて、君たち自身のことである。君たちは、いつの時代でもそうであったように、

自己を確立させねばならない。
――自分に厳しく、相手にはやさしく。――
という自己を。
そして、すなおでかしこい自己を。

21 世紀においては、特にそのことが重要である。21 世紀にあつては、科学と技術がもつと発達するだろう。科学・技術が、こう水のように人間をのみこんでしまつてはならない。川の水を正しく流すように、君たちのしっかりした自己が、科学と技術を支配し、よい方向に持って行ってほしいのである。

右において、私は「自己」ということをしきりに言った。自己といつても、自己中心におちいつてはならない。人間は、助け合つて生きているのである。私は、人という文字を見るとき、しばしば感動する。ななめの画がたがいに支え合つて、構成されているのである。

そのことでも分かるように、人間は、社会をつくつて生きている。社会とは、支え合う仕組みということである。原始時代の社会は小さかつた。家族を中心とした社会だつた。それがしだいに大きな社会になり、今は、国家と世界という社会をつくり、たがいに助け合いながら生きているのである。

自然物としての人間は、決して孤立して生きられるようにはつくられていない。このため、助け合う、ということが、人間にとって、大きな道徳になっている。助け合うという気持ちや行動のものと、いたわりという感情である。他人の痛みを感じることに言つてもいい。やさしさと言いかえてもいい。「いたわり」「他人の痛みを感じること」「やさしさ」みな似たような言葉である。

この三つの言葉は、もともと一つの根から出ているのである。根といつても、本能ではない。だから、私たちは訓練をしてそれを身につけねばならないのである。

その訓練とは、簡単なことである。例えば、友達がころぶ。ああ痛かつたらうな、と感じる気持ちを、そのつど自分の中できつくりあげていきさえすればよい。この根っこの感情が、自己の中でしっかり根づいていけば、他民族へのいたわりという気持ちもわき出てくる。

君たちさえ、そういう自己をつくつていけば、21 世紀は人類が仲よしで暮らせる時代になるのにちがいない。

鎌倉時代の武士たちは、「たのもしさ」ということをし、たいせつにしてきた。人間は、いつの時代でもたのもししい人格を持たねばならない。人間というのは、男女とも、たのもしくない人格に魅力を感じないのである。

もう一度くり返そう。さきに私は自己を確立せよ、と言つた。

自分に厳しく、相手にはやさしく、とも言つた。

いたわりという言葉も使つた。

それらを訓練せよ、とも言つた。

それらを訓練することで、自己が確立されていくのである。

そして、「たのもししい君たち」になつていくのである。

以上のことは、いつの時代になつても、人間が生きていくうえで、欠かすことができない心がまえというものである。

君たち。君たちはつねに晴れあがつた空のように、たかだかとした心を持たねばならない。同時に、ずっしりとたくましい足どりで、大地をふみしめつつ歩かねばならない。

私は、君たちの心の中の最も美しいものを見続けながら、以上のことを書いた。書き終つて、君たちの未来が、真夏の太陽のようにかがやいているように感じた。

以上

<2021 年で没後 25 年になる司馬遼太郎のメッセージはどうだつた？>

**訓練とは、自分自身が、
自己を鍛える鍛冶屋になること！**

- ◆『自分に厳しく、相手にはやさしく＝たのもしさ』これは難題だ。そう簡単に実行できるものではない。でも司馬さんは言う「訓練で勝ち取れ」と。僕なんかも、自分を振り返つてみれば、まだまだ修行(訓練)が足りないなあと思う。
- ◆君たちもまた「進路選択の 1 年間」を通じて「生きている(いのち)意味」や「自分や仲間の存在」について考え、自己を鍛える鍛冶屋になり、「たのもししい自己」を僕たち大人も含めて確立(創造)していこうではありませんか！！
- ◆2051 年になつても 2101 年になつても AI がどんなに進歩しても【かしこく、自分に厳しく、相手にはやさしい「たのもししい自己」】の確立は、不変だと思う。